

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1177

令和6年4月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



サクラとスズメ：(大阪市内・大阪府)

トピックス：令和6年度近畿中国森林管理局重点取組事項について(企画調整課)

ニュース：総務課、兵庫森林管理署、鳥取森林管理署

花草木：ヤマボウシ

我が署のスタッフ：岡山森林管理署

森林事務所等紹介：倉吉森林事務所(鳥取森林管理署)

国有林最前線：福井森林管理署

令和 6 年度

近畿中国森林管理局重点取組事項について

【企画調整課】

近畿中国森林管理局では、国有林野の管理経営に関する基本計画に基づき、「国民の森林」として、公益重視の管理経営を一層推進し、その組織・技術力・資源を活用して民有林に係る施策を支え、森林・林業施策全体の推進に貢献すべく、「令和6年度 近畿中国森林管理局重点取組事項」を策定し、取り組んで参ります。今回は、その取組の一部をご紹介します。

1 公益重視の管理経営の推進等

➤ 国土強靱化への取組



ヘリコプターを用いた
災害初動調査



平成30年豪雨からの復
旧状況（広島県東広島）

豪雨や地震等、多様化・激甚化する山地災害から国民の生命・財産を守るため、災害に強い国土基盤の形成を図ります。また、令和6年能登半島地震の影響により、特に被害が甚大な珠洲市、輪島市内の民有林の山腹崩壊地等について、国直轄による復旧に取り組めます。

➤ 花粉症対策に向けた取組



花粉症対策のイメージ図

昨年5月の関係閣僚会議において、花粉症に関する「発生源対策」、「飛散対策」、「曝露・発症対策」を三本柱とする「花粉症対策の全体像」が取りまとめられました。

これらの対策として、国有林では、スギ人工林の伐採・植替えの加速化や花粉の飛散予測につながる情報の高度化に取り組めます。

2 「新しい林業」の実現に向けた取組の展開

➤ 下刈りの省力・削減の取組



真夏に行っていた下刈り作業を冬期に試行

再造林後に行う下刈り作業は炎天下での過酷な作業となることから、労働の軽減、安全確保の観点から、冬下刈りの試行に取り組めます。

また、雑草木との競合状態に応じて下刈りの要否を判断することで、下刈り回数を削減し、保育コストの削減に取り組めます。

鳥獣害対策の推進



立木を活用した防護柵



小林式誘引捕獲法※による捕獲

シカの増加により深刻化する植栽木への被害に対処するため、低コストかつ効果的な防護柵の実証や積雪地域における耐久性を高める防護柵の検証に取り組みます。

※林野庁職員が開発した捕獲手法で、初心者でも簡単かつ効率的に捕獲できるもの。

デジタル技術の活用推進



ドローンや3次元地上レーザスキャナ等のデジタル機器を業務に積極的に取り入れ、業務の省力化・効率化に取り組みます。

現場でのドローンの活用（左）と3次元地上レーザスキャナによる林分解析（右）

3 民有林関係者等多様な主体への技術支援・普及

民有林においては、森林管理経営制度による森林の経営管理の集積・集約化や森林環境譲与税を活用した森林整備等の取組が進められています。

国有林では、これらの取組を支え、森林・林業施策全体の推進に貢献するため、国有林のフィールドや技術を活用して、民有林関係者等多様な主体への支援に取り組みます。

民有林への出張講座



効率的な獣害対策の紹介とドローンの操作演習



林業大学校等への支援



コンテナ苗を活用した植栽体験

災害発生時の初動対応・民有林支援



被災箇所の現地調査とドローンを活用した被災状況調査



森林環境教育の推進



出前授業の様子

令和6年度近畿中国森林管理局重点取組事項の詳細については、当局HPをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/saisei.html>



令和6年度 近畿中国森林管理局 重点取組事項を記者発表しました。

【総務課】

近畿中国森林管理局では、4月11日（木）、令和6年度の重点取組事項について記者発表を行いました。



挨拶する國井局長

記者発表では、能登半島地震による被害箇所の復旧をはじめとする国土強靱化への取組をはじめ、森林の持つ多面的機能の持続的な発揮に向けて、公益重視の管理



説明をする企画調整課長

経営を一層推進すること。また、林業の低コスト化を目指す『新しい林業』の実現に向け、

技術の実証を行い、民有林との連携や技術支援に積極的に取り組んでいくことを説明しました。



会場の様子

参加いただいた記者の方からは、花粉症対策に向けた取組み、木材市況の動向、^{ひわだ}檜皮の供給などについての質問や意見がありました。

近畿中国森林管理局では、国有林が『国民の森林（もり）』として国民の期待に応えられるよう、関係機関とも連携しながら、森林の公益的機能の維持・向上、木材の安定供給等に取り組んでまいります。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/2024_04_11kisyahappyou.html



「TOA 育みの森」で山桜の植樹活動が行われました。

【兵庫森林管理署】

3月16日（土）、姫路市に所在する^{ほうれんやま}方蓮山国有林の「TOA 育みの森」で東亜建設工業株式会社の職員の方々による山桜の植樹が行われました。

本催しは民間団体や地方公共団体が国有林で植樹・下草刈り・歩道整備などの森林づくりを行うことができる「協定締結による国民参加の森林づくり」制度に基づき実施された活動となります。

また、昨年度の活動の一環として設置した巣箱には、鳥が中に入った形跡はありましたが、残念ながら卵や雛の確認はできませんでした。



山桜の植樹



巣箱の状況確認

来年の春には綺麗な桜の花が咲き、巣箱からは元気な鳥のさえずりが聞こえることを期待したいと思います。



植樹の記念撮影

「協定締結による国民参加の森林づくり」について詳しくは下記のページをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/kokumin_sanka/kyouteiseido/kyoteiseido.html



令和5年度「にちなん中国山地林業アカデミー卒業式」に出席しました。

【鳥取森林管理署】

3月15日（金）、「にちなん中国山地林業アカデミー」（以下「アカデミー」という。）（鳥取県日南町）において、第5期生10名の卒業式が執り行われ、当署長と森林技術・支援センター所長が出席しました。

卒業生は、アカデミーの理念である「林産業が求める即戦力となる人材と中国山地に位置する地域が求める人材の育成」のとおり、春から鳥取県内で7名（うち町内で2名）、島根県、岡山県、広島県の事業体にそれぞれ1名が就職することとなり、全員が林業に従事します。

卒業式では、中村学長から卒業生に町産のヒノキで作られた卒業証書が贈られました。また、来賓祝辞では、署長から卒業生に対して、署が実施したカラマツコンテナ苗の植栽実習の思い出とともに、デジタル技術やエリートツリーの導入など林業の新しい時代を共に築けるよう『『グリーン成長』を目指して、大きく羽ばたいてください』とエールを贈りました。

卒業生代表からは、学長らに「仲間と共に学んだことを活かし、健全な森づくりに貢献したい」と力強い決意表明がありました。鳥取森林管理署では、今後も引き続き、国有林内での実習受け入れ等、アカデミーの人材育成に協力してまいります。



卒業式集合写真

お知らせ

【総務課】

○近畿中国森林管理局では、「令和6年能登半島地震」の早期災害復旧に取り組んでいるところですが、今後の復旧対策の円滑な事業実施のため、「石川森林管理署奥能登地区山地災害復旧対策室事務室」を開設しました。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kouhou/okunototaisaku.html>



近畿中国森林管理局
動画 UT

動画ワーキングチームが作成した動画をホームページに掲載しました。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/2023doug_r5.html



森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○4月10日（水）～5月10日（金）の展示は、近畿中国森林管理局、高知県大阪事務所、NPO国産材在宅推進協会です。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【三重森林管理署】



○令和6年3月に「大杉谷国有林からの手紙」60通目をホームページに掲載しました。

バックナンバーもありますので、興味のある方は下記のページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/oosugitegami.html>



花草木

【ヤマボウシ】

ヤマボウシ（山法師、学名：Cornus kousa subsp. kousa）はミズキ科ミズキ属ヤマボウシ亜属の落葉小高木ないし落葉中高木です。初夏を代表する花木で、花びらのように白く見える総苞片をつけて花を咲かせます。

山林などに自生する木ですが、花、実、紅葉が観賞の対象になるので、街路樹や庭木としても植えられています。原産は日本、中国（漢名は「四照花」）及び朝鮮半島ですが、現在では多くの国で親しまれています。庭木として人気の高いハナミズキ（別名アメリカヤマボウシ）は本種の近縁種にあたります。

果実は直径1～2センチほどの集合果で、長い柄に垂れ下がります。9～10月に赤く熟した果肉は柔らかくて甘みがあり、野生の猿は好んでこれを食べるようです。人も、生食、果実酒、ジュース、シロップとして飲食できるとのこと。果実の形がクワに似るため、ヤマグワという別名もあります。

和名ヤマボウシの由来は、中心に多数の花が集まる頭状の花序を法師（僧兵）の坊主頭に、花びらに見える白い総苞片（そうほんへん）を白い頭巾に見立てたもので、「山に咲く法師」（山法師）を意味するといわれているそうです。

ヤマボウシの花言葉は、「友情」



大阪市内の公園で見つけたヤマボウシの花

我が署のスタッフ 岡山森林管理署

伊藤 由希 (いとう ゆき) (R4年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループに属しており、経営担当として主に立木販売や副産物の販売に携わっています。上司や先輩方に教えていただきながら、保安林等の規制下において、国有林で皆伐を行うための一連の流れを学ぶことができました。相手方へ丁寧に対応できるよう業務に取り組んでいきたいです。

【職場の雰囲気は？】

和やかな雰囲気です。分からないことを質問しやすいです。丁寧に教えてくださるので勉強になります。

【林野庁の魅力は？】

現場へ行き、自分の目で確認して考えて仕事ができる点、現場の第一線で働く業者の方からの意見を聞くことができる点です。現場で得た情報を共有しどのように管理していくかを皆で考え、森林を次の世代へつないでいくことにやりがいを感じます。



3次元地上レーザスキャナによる立木調査の様子

森林事務所等紹介

倉吉森林事務所（鳥取森林管理署）

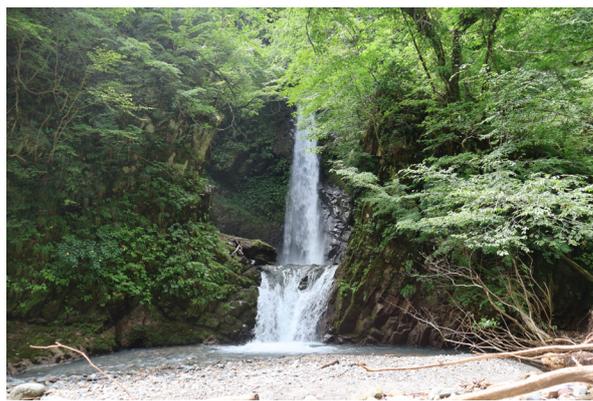
首席森林官 山田 邦彦（やまだ くにひこ）

倉吉森林事務所は鳥取県中部に位置し、管轄区域は県中部の倉吉市・三朝町・湯梨浜町・北栄町・琴浦町で、所在する国有林9団地（約6,000ha）、官行造林6団地（約300ha）を管理しています。

管内は特色のある国有林が多く、古くは山岳仏教の聖地で、後醍醐天皇が隠岐を脱出して潜行したとされる船上山国有林、日本の滝100選に選ばれている大山滝がある本谷奥国有林、溪谷美が美しく史跡、名勝及び天然記念物に指定されている小鹿溪がある中津国有林などがあります。



船上山国有林



大山滝

事業では、森林の持つ公益的機能の発揮や木材を安定供給するため、令和6年度は生産事業として伐倒（保育間伐含む）7,680 m³、素材生産2,560 m³、造林事業として植え付け・地拵えを4.83ha 予定しています。

また、海岸部には松林が美しい汐川前国有林があり、飛砂防備保安林として、地域住民の生活にも役立っています。

しかし、汐川前国有林を含む海岸付近の松林は、近年、松くい虫により甚大な被害が発生しています。

当国有林では、松くい虫被害を防ぐため、薬剤の樹幹注入を4区域に分け、区域ごとに毎年順番に実施しています。

樹幹注入の効果は高く、ごく少量の枯れはみられるものの緑豊かな松林が維持されています。



汐川前国有林の松林



樹幹注入

このほか、管内には国有林以外の観光名所として、国内有数のラジュウム含有量を誇る三朝温泉、日本一危険な国宝として有名な投入堂、某探偵アニメで有名なふるさと館など見所が沢山ありますので、鳥取県に観光でお越しの際は中部地方もご検討ください。

県中部の玄関口（倉吉市）にてお越しをお待ちしています。

シリーズ『国有林最前線！』

航空レーザ計測を活用した森林資源情報把握の取組

福井森林管理署

森林資源の情報を把握することは、森林計画の策定、森林施業、路網整備等を実施するうえで極めて重要なことです。

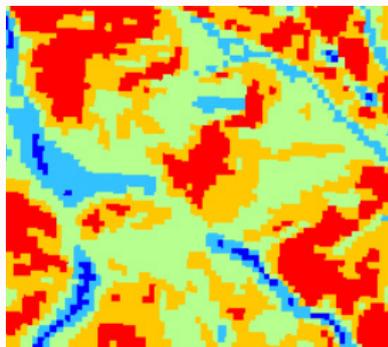
これまで、森林資源の情報を把握するには、森林調査簿や収穫調査等のデータを活用していましたが、福井森林管理署では、令和6年度から航空機が照射するレーザを利用した「航空レーザ計測」、そのデータを解析することで得られる、樹種、樹高や地形などの高精度な3次元データの取得を進め、これらのデータも併せて活用していく予定です。

なお、データ取得と解析の実施にあたっては、効率的に進めるため、福井県と協力して民有林と国有林を包括する区域ごとに一体的に行います。

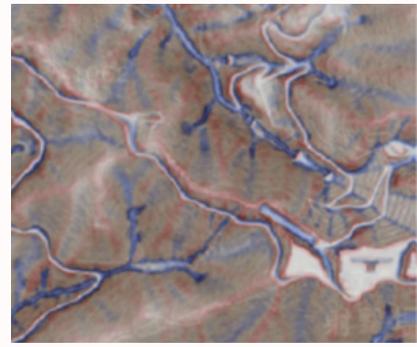
航空レーザ計測は、航空機に搭載したレーザスキャナから地上に向けてレーザ光を照射し、地表面や、樹冠表層を3次元で計測するもので、その計測データを地形解析し、傾斜区分図^{※1}、微地形図^{※2}等の作成を行うことで、細かな地形を判読でき崩壊地、崩壊危険箇所、地滑り跡地に加え、既存路網も把握できるため治山対策や路網整備に活用できます。また、森林資源解析で林層区分図^{※3}等を作成し、スギ、ヒノキ、広葉樹等の樹高、立木密度、胸高直径、材積等の森林資源情報を把握することで森林計画の策定、森林施業に活用できます。

今後は、これらの新技術を積極的に活用し、森林管理や林業の効率化等を進めて参ります。

※1 傾斜区分図：
対象地の傾斜を角度毎に区分し図示したもの。(右図)



※2 微地形図：
地形起伏を分かりやすく強調し、高精度に微地形を表現し図示したもの。(右図)



「森林・林業・木材産業の現状と課題」令和6年3月 林野庁 より引用

※3 林相区分図：樹種や樹冠形状の特徴を図示したものの。(右図下)



「高精度な森林資源情報等の公開について」 林野庁 HP より引用